

頑張る 農業法人

福知山市遷喬地区の大規模な区画圃場整備が2008年3月末に完成したのを受け、戸田、土、石原の3集落の農家172戸で立ち上げた農事組合法人「遷喬(せんきょう)ふあーむ」。

60畝の農地を集積、水稲を中心に小豆、小麦の生産に大型機械を駆使し、効率的な営農に取り組む。さらに農産物直売所の設置や担い手育成にも積極的で、地域活性化を目指している。

同地区は福知山市東部の由良川南沿いに位置する。平たん地に広がる農地は、以前は1150枚の狭い区画で、農道も狭く、用排水路も未整備で、非効率な営農環境だった。このため同市が中心と

なって、02年度から圃場整備を進め、農地面積54畝が6年後に完成。1畝以上の区画が29枚など計64枚にまとめられた。

3集落には各営農組織があつたが、府やJAなどの働き掛けもあり、圃場整備の完成を機に、農地の維持や効率的な営農を目指し、08年3月に同法人を立ち上げた。

現在、水稲36畝、小麦12・3畝、小豆(京都大納言)9・7畝、野菜類1・4畝で経営している。法人化を機に大型機械も導入し、以前の営農組織ではできなかった効率的な作業を展開してい

せんきょう 遷喬ふあーむ 福知山市



効率的営農を目指す井上代表理事(前列中央)ら役員

大区画圃場で効率化

る。特に小豆の栽培は、一連の作業を全て機械化し、良品質で収量増に努める。特に小豆の栽培は、一連の作業を全て機械化し、良品質で収量増に努める。また、農産物の加工・販売に向け、新鮮野菜直売所「楽菜(らくさい)」を毎週土・日曜日に戸田集落内で開設し、定期的

直売所設置や担い手育成も

に感謝イベントを開催するなど常連客もできている。さらに後継者育成として、田植えや稲刈り、小豆の種まきなどの主要作業から草刈りなどの日常的な作業を、各集落の若手に呼び掛けて当たらせている。小・中学生の農業体験も受け入れ、農業の大切さや魅力を伝えることにも力を入れている。

同法人の活動で、地域の放棄農地もなくなったが、一方で限られた農地の中で、水稲中心の経営をいかに向上するかが課題だ。

井上代表理事は「水稲の直播栽培を中心に省力化を進め、コスト削減を目指したい。次代を担う若手農業者に野菜作りに取り組んでもらい、掛け替えのない農地を守っていききたい」と思いを語る。▽法人の所在地 福知山市石原4の28